

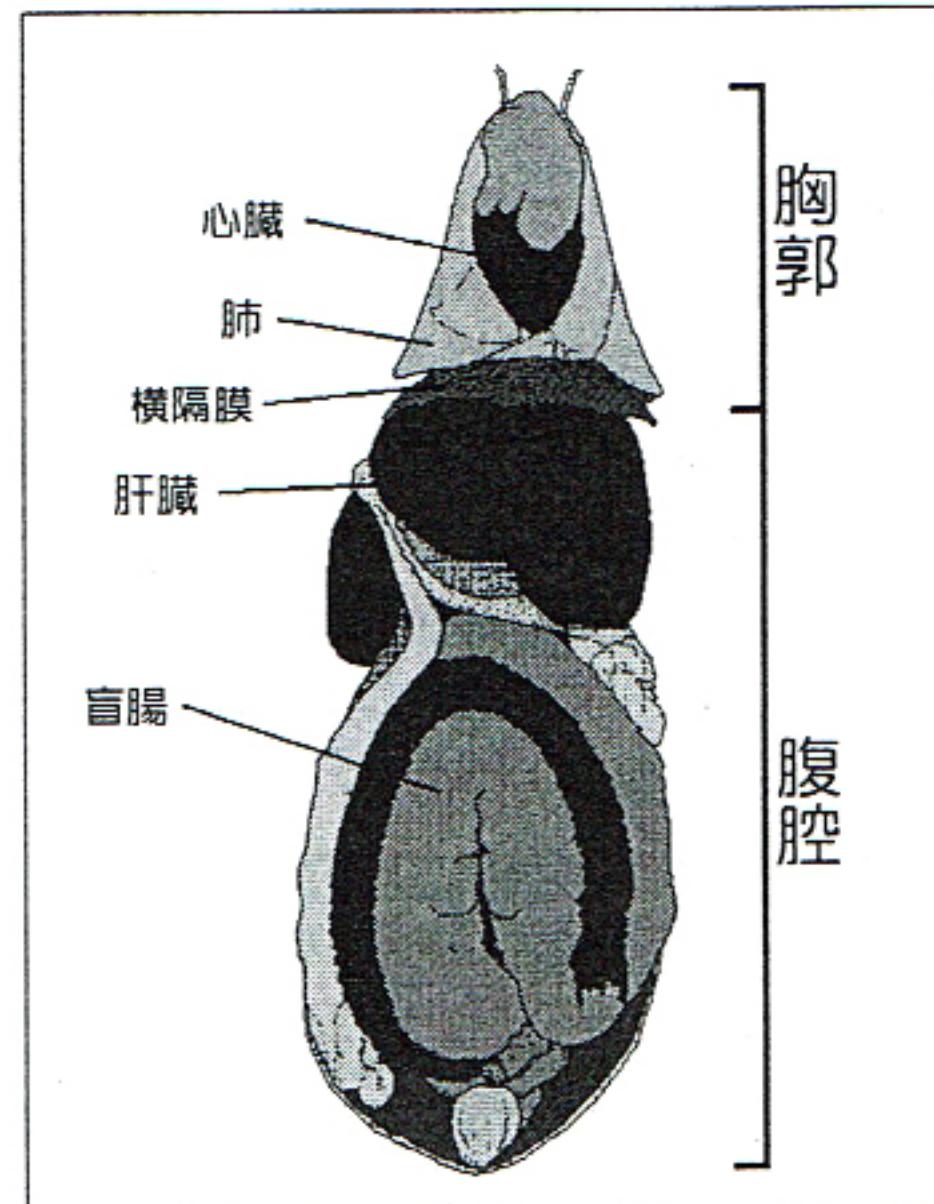
ウサギの飼い方



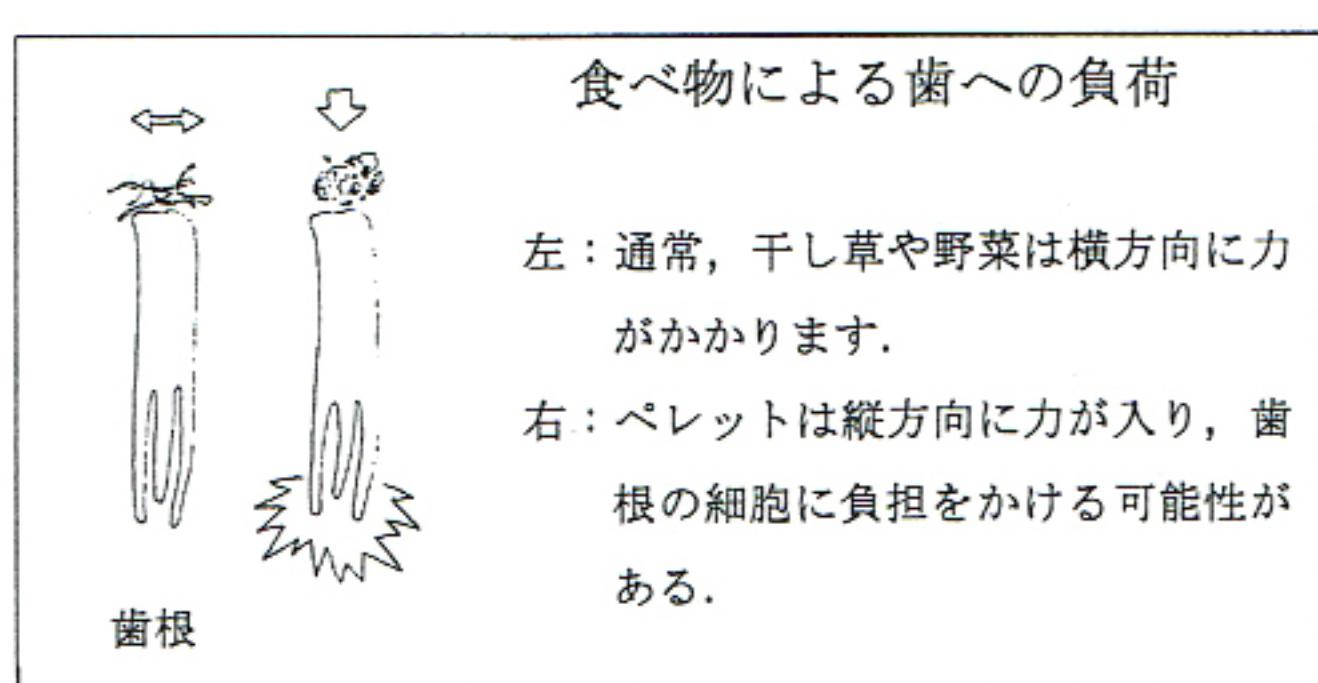
従来、ウサギは弱い動物だと言われてきました。確かに犬や猫に比べると弱い部分もありますが、上手に飼えば元気で長生きすることができます。ウサギを飼う上で覚えておいてもらいたいことが幾つかあります。それをこれからお話ししましょう。

ウサギの特徴

- ウサギは草食動物であり、犬猫に比べて非常に複雑な消化機構を持っています。
特に盲腸は非常に大きく、お腹の中の多くを占めています。盲腸の中に食べた植物を発酵させ栄養に換える細菌がいて、盲腸糞としてうさぎに栄養を与えます。
- 盲腸の細菌バランスに留意した食事を与える必要があります。纖維質と水分が必要です。
- ストレスの少ない環境で飼育しましょう。
- ウサギは吐くことのできない動物です。部屋に放しているとき異物などを飲み込まないように注意します。これら異物が胃に詰まってしまうと大変危険です。また電気のコードで感電してしまうこともあります。
- 他の動物に比べて肺が小さいので、胸を圧迫するような抱き方をすると嫌がって暴れて腰椎の骨折を招いたり、窒息死をしてしまうことがあります。
- ウサギのおしっこの色はいろいろあります。黄色、白、オレンジ色などで濁っていることもあります。これはカロチンやカルシウムの色なので、あまり心配はありません。ただ白く濁った尿をよく見る場合は食事の見直しが必要となります。



ウサギの歯の特徴



ウサギの歯は常生歯と言われ、死ぬまで伸び続けます。永久歯に比べると大変長い歯になっています。

このような歯は横方向の力には強いのですが、縦方向に力を入れると大変弱い構造となっているため、ウサギが正しい咬合で食べられる干し草や野菜などの食事を選択していく必要があります。

食事

食事は干し草と野菜を中心に与えるようにします。ついついペレット（固体飼料）を中心に与えてしまいがちですが、これは消化器疾患のもっとも大きな原因となります。うさぎの胃腸機能は粗纖維分が豊富ないと正常に働きません。ペレット中心の食事を与えていると胃の動きも悪くなり、ひいては毛球症や胃停滞の原因となってしまいます。

● あげてほしいもの

A) 干し草

チモシー、オーチャードグラス、オーツヘイなど

B) 野菜類

にんじん、キャベツ、レタス、大根、カブ、ラディッシュ、キュウリ、クレソン、大葉、パセリ、白菜、グリーンカール小松菜、アシタバ、ホウレンソウなど。

C) ペレット（少量；体重の5-10%程度）

子ウサギ、母ウサギなど、栄養が必要な時だけ与えましょう。また老齢や歯牙疾患のあるウサギにも使いますが、この場合高線維のものを選ぶことが大切です。

D) 水

● あげてはいけないもの

A) 人間の食べ物（パン、お菓子類）

B) ねぎ類、アボガド、ニラ、ニンニク

赤血球を壊す中毒を起こす危険があるとされています。

C) 炭水化物を多く含む野菜類

芋類、穀類（米、小麦、大麦、えん麦、ふすま、トウモロコシ etc）、ナッツ類、カボチャ、ゴボウなど

D) ウサギのおやつ（上記の野菜類を利用しているもの）

ペレット（固体飼料）について

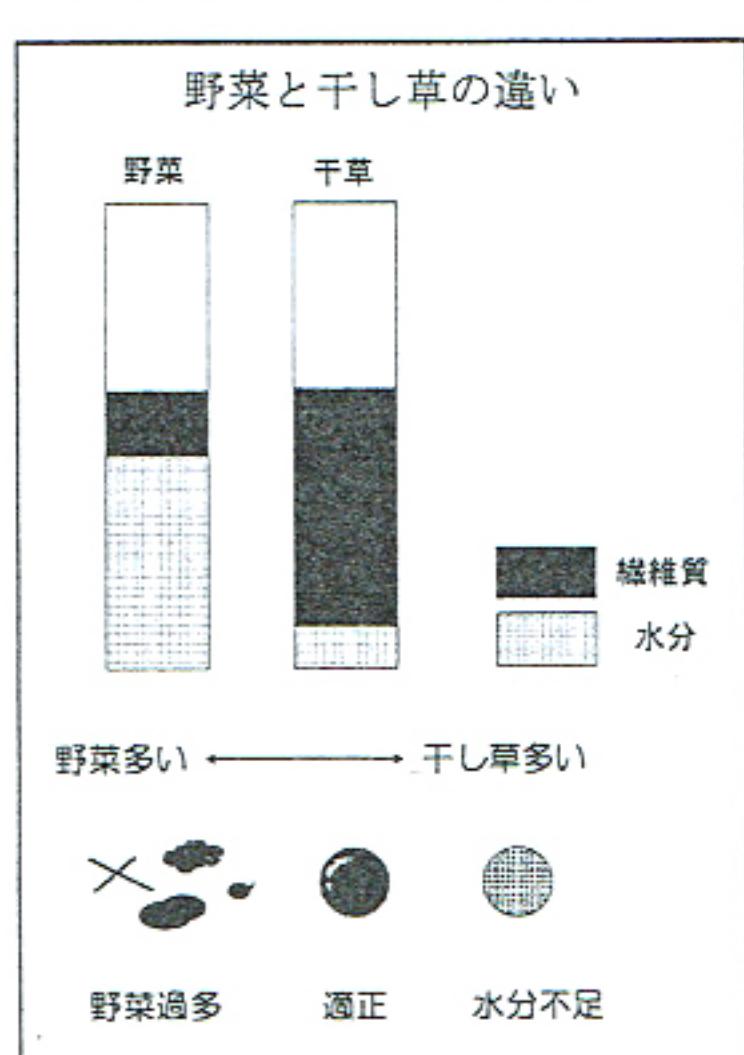
ウサギがペットとして飼育されるようになったのは最近のことです。それまでは食肉用や毛皮の生産のために飼育されていました。生産性を上げるために手間がかからず、早く成長させるための食事が必要となり、ペレットが登場したのです。そのため、その内容はアルファルファなどの高タンパク、高カルシウムの植物を用いたものがほとんどです。成長期や妊娠期の食事には適しますが、大人になってもそればかり食べていると肥満や腎臓病を引き起こす原因の一つになります。ペレットは不必要なものではありませんが、それだけ与えるのは考えものです。歯牙疾患のため咀嚼がうまくできない場合などには高纖維質のペレットを使用することもあります。

☆果物類はおやつ程度に少量なら与えてもかまいません。（バナナは太りやすいのでやめましょう）

☆ウサギはもともと夜行性なので日が暮れてから食事をはじめる子もいます。

☆野草は地域にも依りますが、寄生虫の感染源になったり殺虫剤、除草剤で中毒を起こす可能性もあるので注意が必要です。

【 干し草と野菜の割合の決め方 】



野菜は我々が考えるより纖維質は少ないため、大量に与えると纖維不足を起こしおなかを壊しやすくなります。

○ 干し草は纖維質が多いため、糞は大きくなり数も増えますが、水分が不足するために脱水気味となり、飲水量は増えます。

○ 両者のバランスがとれると、糞は適度な水分をふくんだ大型のものとなります。飲水は殆ど見られない割に尿量は増加します。これが適切な纖維と水分のバランスとなるのです。

【 注意 】食事を切り替える場合は、まず干し草を多めに与えることから始めてください。

○ これらのバランスは季節や環境、年齢などにより異なりますので、糞の状態を確認しながら調整してみてください。

温度管理

ウサギが暑い時のサイン



- 1) 耳が熱い
- 2) 体を伸ばしている
(おなかの接触面積を増やして熱を逃がします)
- 3) 呼吸が荒い
(呼気中から熱を放出します)

ウサギが快適と感じる温度は 15~23°C と言われています。もともと、夜行性で運動あまりしない動物なので体温の放出機構も我々と比べて乏しく、そのため暑さに極めて弱い動物となっています。

- 夏場などはエアコンをつけておくようにしましょう、それでもまだ暑そうなら、エアコンの温度下げてやるか、保冷剤を併用すると良いでしょう。

熱中症になると食欲不振や下痢などを起こし死亡することもあります。くれぐれも温度管理には留意しましょう。

寒さには比較的強い動物ですが、ヒーターや風よけなどを用意しておくと安心です。

衛生管理

○ 不衛生な環境では様々な病気を招くことになります。小屋やトイレの掃除は毎日するようにしましょう。特に野菜を食べていると尿の量が多くなりますのでトイレの掃除はまめにやる必要があります。

○ ケージはうさぎ用のものが販売されています。床はスノコ（木製）や金網のものがあり、スノコはオシッコなどが拭き取りにくく不衛生になりやすいので、複数枚用意して使い回すようにしましょう。また、おしっこが足の裏やおしり周りにつくと皮膚炎の原因にもなりますから、トイレは金網の物を選ぶと良いでしょう。

【足の裏の赤みについて】



ウサギは平らなところにいると、足の裏にタコや潰瘍をつくることがあります。それは前肢は指先を、後肢は踵から足の中心部に渡る部分で体重を支えていることに起因しています。



○ 主な原因として不適切な食事により下痢や軟便が多い、肥満により体重が重い、尿が足の裏につく、不衛生な環境にいるなどが挙げられます。この足底の炎症は悪化をすると痛みを伴うばかりでなく、感染を起こしたり潰瘍を形成したりして、歩行困難になってしまうことがあります。

○ ただ、室内飼育のウサギは多少なりともこの部分に赤みはあるものですから、被毛をかき分けて見つかる程度なら様子を見ていてもかまわないでしょう。

判断が難しいときは近くの獣医師に診療してもらいましょう。

避妊手術

メスのウサギを飼育している場合は避妊手術を行うことをお勧めしています。

- この手術の目的は病気の予防になります。

雌のウサギは3歳齢をすぎると子宮腺癌になる可能性が極めて高く、これにより死亡する例は後を絶ちません。出血などの症状として見られることもありますが、殆どは無症状で経過するので日常の飼育でこの病気を発見することは困難です。

また乳腺腫瘍などをおこす可能性もあります。これも転移の可能性が高く発生前に予防しておくことが肝要です。

2歳齢を超えると子宮内膜の炎症や変形を起こしているウサギが目立ちます。出産させる場合は2歳までにさせるようにしましょう。



子宮腺癌の子宮

子宮表面や脂肪にも転移している。

【手術の安全性】

ウサギの麻酔の安全性は事前に血液検査や全身状態の検査をしておくことで、他の動物と同等の安全性を確保することができます。小さいから麻酔は危ないと言うことはありません。

- 過度の肥満ではなく、正しい食事をとつていれば、かなり安全な処置となります。

- 詳しくは当院のスタッフにご相談ください。

※ ウサギに限りませんが、100%安全な麻酔というものはありません。個体の特性などにより死亡するケースも見られます。

【術式】

子宮に異常が認められなければ卵巣摘出術となります。

子宮に炎症や変形などが認められた場合は子宮卵巣全摘出術となります。

【手術のスケジュール】

手術は緊急時をのぞき、すべて予約制になっております。

- 1) 来院時、または電話予約を行ってください。
- 2) 当日は朝 10:00 までにご来院ください。（血液検査を行う場合はこのときにおこないます。）
- 3) 通常は昼頃から手術を開始します。20~30 分の手術となります。
- 4) 当日の夕方に電話を入れていただければ、そのときの状態をお伝えいたします。
- 5) 退院は翌日になります。受け渡しは診療時間内になりますのでご注意ください。
- 6) 二次感染防止のため抗生素を一週間内服します。
- 7) 手術後、一週間後にステープルの除去に来院して下さい。

ステープルはすぐにとれますので、予約の必要はありません。

これが一般的な避妊手術のスケジュールとなります。

詳しくは当院スタッフにご相談ください。

すすきの動物病院

〒225-0021

神奈川県横浜市青葉区すすき野 3-7-3

TEL (045) 904-2066 / FAX (045) 904-2096

e-mail susukino@vet.ne.jp

URL <http://www.susukino-vet.com>